

各分科会担当者から…

【第1分科会】より

「暮らしの中の排水・あなたはどこを意識しますか」と題して、水を汚さないために、家庭でできること、または今、実行していることを、参加者と一緒に考えようと、アンケートをもとにしながら、3班に分かれてそれぞれに、わいわいと話し合いました。参加された皆さんそれぞれが、環境に良いと思われる方法を考えて生活されている様子を知ることができました。自分の生活の仕方が水環境にどのように影響するのかということをも多くの人が意識することが大切だと思います。県環境研究センターのデーターや、スタッフとして参加した準備会のメンバーの活動も知らせていくことも必要だと感じました。

【第2分科会】より

印旛沼水値汚染問題は県民140万の「飲料水」として利用されていることで、対象県民にとっては由々しき問題であろう。汚染は「自然系」「生活系」「産業系」に区分され、農業による汚染は自然系に属し、農業も汚染源の一つであることは確かであり、認識を新たに対処すべきことは言うまでもない。

農産物の生育には不可欠な「窒素」「リン酸」「カリ」の三要素の内「窒素」「リン酸」が汚染の主であるが、流域住民の多くは「窒素・リン酸の使い過ぎ」が汚染の根源と考えていると思われる。

汚染原因の一つであることは確かだが、農業者は現在、米・麦等の不採算の状況で、誰もが高価な肥料代金の削減に苦慮していることで「使い過ぎ」との解釈の仕方は必ずしも正當とは言えない一面がある。一部に現在の施肥料の50%削減の提唱があるが、何が本当の原因であるか科学的に解明することが必要であろう。

【第3分科会】より

年齢、経験、居住地域、職業が異なる人々が一緒に話し合えたこと自体が「わいわい会議」という実感があった。3名の話題提供の後、参加者に参加動機や、印旛沼への思いなどを提言していただく中で「汗水流して行う里山保全活動の意義」について疑問が出され、そこで改めて「現在の里山の価値」について話し合った。若い参加者から、里山は多くの生物の生息場所、子どもから大人まで楽しめ、癒しをもたらす場所などの意見が出された。湧水を復活させても、広い印旛沼から見ると涙の一滴にしかないという悲観論は、若い人の参加と里山に関心のある若者がいるということで「まずは涙の一滴から」という前向きな姿勢で終わることができ、今後の保全と活用につながる分科会になったように思う。

【第4分科会】より

酒々井町では過去（近年にも）中心部に近い市街地で家屋への浸水被害があり、今後もその心配はあります。印旛沼の歴史、氾濫する川の今昔、各家庭で行う浸透マス設置の実例と学んで行くと、自分にも出来ることがあると実感させられます。

浸透マスは、枯渇していく近くの湧水を心配して始まったことでしたが、私の身の回りでも睡蓮が美しい花を咲かせた天水桶や家族の数だけ並んでいた雨靴も次第に姿を消しました。そんな各家庭の生活様式の変化が、ため池・湧水を無くしていったのだと気付かされました。

身近な流域を知り、安易な方向に流されず、水も気持ちにも涵養を心掛け、水に感謝の姿勢で描きたい印旛沼未来予想図です。

【第5分科会】より

環境学習の意義を知り、問題意識を持ってグループ活動を継続していくことの大切さを学びました。一例として、今後は酒々井町の小学校の環境学習のお手伝いが出来るのではないかと思います。

また、酒々井町には豊かな自然が多く残っており、谷津や田圃にはたくさんの湧き水があることを知っていただきました。そのほかの酒々井町の水環境を含めて、いかに保全と活用をしていくかの意見があまりでまsenseんでした。

今後は、試行錯誤くり返ししながらも、環境学習を意識して、子ども達や大人も楽しめる場所作りが出来るのではないかと感じました。

【わいわい会議準備会メンバー（順不同）】

酒々井町婦人会、酒々井町湧き水保存会、酒々井里山フォーラム、酒々井すいすい倶楽部、酒々井町郷土研究会 野草部、栄町廃棄物減量等推進審議会、NPOせっけんの街、印旛沼広域環境研究会、印旛沼を考える女性交流会、谷当グリーンクラブ、印旛沼土地改良区、印旛沼流域水循環健全化会議

【事務局】 千葉県県土整備部河川環境課・環境生活部水質保全課

【連絡先】 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1 Tel.043-223-3155 Fax.043-221-1950
kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp（千葉県県土整備部河川環境課）

印旛沼わいわい会議 in しあい

平成21年10月17日(土)
プリミエール酒々井
にて開催しました!!

おいしい水の町、酒々井で描く印旛沼未来予想図

……平成21年度 開催報告書……

☆印旛沼の現状と緊急行動計画☆

印旛沼は、流域の土地利用の変化や生活スタイル等の変化により水質が悪化するとともに、湧水や川の水量の減少、多様な生物が生息する水辺の減少、洪水の発生などの問題も生じています。

そこで、千葉県では平成16年2月に「恵み豊かな印旛沼の再生」を目指し、できることから実行に移し、全員でとり組むため『印旛沼流域水循環健全化 緊急行動計画』を策定しました。

目標1
遊び、泳げる
印旛沼・流域

目標2
人が集い、
人と共生する
印旛沼・流域

目標3
ふるさとの生物
はぐくむ
印旛沼・流域

目標4
大雨でも安心
できる
印旛沼・流域

目標5
良質な飲み水
の源
印旛沼・流域

緊急行動計画の目標

この計画について、みなさんに知っていただき、一緒に行動していくため、市民の皆さんと意見交換会を開催しています。

☆印旛沼わいわい会議の開催☆

この計画の策定後、印旛沼の再生に向けて皆が一緒に行動していくため、平成16年度から市民・NPOの方々と行政が一堂に会して、文字通り「わいわい」話し合う「わいわい会議」を開催しています。

【過去の開催状況】

- ・平成16年度：平成16年11月10日 佐倉市中央公民館
- ・平成17年度：平成17年10月25日 八街市中央公民館、平成17年11月5日 八千代市役所
- ・平成18年度：平成18年10月27日 船橋市北部公民館、平成18年11月9日 成田国際文化会館
- ・平成19年度：平成19年11月25日 千葉市文化交流プラザ
- ・平成20年度：平成20年11月16日 印西市文化ホール

☆今年のわいわい会議の目的☆

※みんな＝流域の市民や行政ほか全ての主体

- (1) 印旛沼の水環境をよりよくするために、みんな*でわいわい話し合おう。
- (2) 印旛沼再生のための行動のきっかけづくりの場としよう。

主催：印旛沼流域水循環健全化会議





印旛沼 わいわい会議 in しずい

おいしい水の町、
酒々井で描く印旛沼未来予想図

日 時：平成21年10月17日(土)
場 所：プリミエール酒々井
参加数：193名



【第1分科会】

「暮らしの排水」

下水道が整備されていれば、排水に気を使わなくても良いのでしょうか。下水道を流れる水が汚れていれば、最終処理場では、より多くの薬品等により、コストの高い水を放流することになります。

毎日の生活の中で、どのような事が実践できているのかアンケートに答えながら、考えてみたいと思います。

雨水の処理や自動車の洗車に使われた水等についても、暮らしの中の排水として、何か出来ることはないのでしょうか。

「おいしい水の町 酒々井」からの暮らしの排水が流れる沼が「きれいな水の印旛沼」になることを願っています。

《第1分科会のまとめ》

★無洗米の試食→思ったより美味しかった。

★米のとぎ汁を流さない→庭にまく。

★油は流さない、くず取りネットの使用など水に関しての意識は高い。

- ①一般の人に伝えることが大切！
- ②まずは隣り近所への呼び掛けを行う！
(身近な所から広げることが大切)

【第4分科会】

「生活の中の治水」

わいわい会議において、印旛沼の治水問題を初めて取り上げました。治水問題は、水の利用や排水のように毎日の生活に係わることはありません。

また、その災害を被る地域は、局地的であったりします。しかし、だからといって、誰もが無関心で良いのでしょうか？

そこで、本分科会では、皆で語り合い、日常から取り組むべき地域や各家庭等の防災対策について、行政から話題提供を受け、アンケートを行い、専門家から講評をいただきながら、学びたいと考えています。

《第4分科会のまとめ》

①浸透ます等を家庭で行える小さな取り組みを流域全体に大きく広げることは重要である。

②川上に浸透ますという小さなダムを作り、川下を守る。

③治水対策は住民と行政が一体となって進め、お互いをよく知ることが大事である。

印旛沼流域が災害のない安心・安全な流域となることで、印旛沼と住民が仲良く暮らせる未来予想図を描いて行く。

【第2分科会】

「環境にやさしい農業」

印旛沼の流域面積の約37%が田や畑、果樹園といった農地で構成されています。恵み豊かな農産物がたくさん生産され、私達の食を支えています。また、農地には様々な生き物が数多く生息し、千葉県の生物多様性を一層豊かなものにしています。さらに、人々に深い安らぎと潤いを与えたり雨水が地下水を養ったりする等、農地は非常に多くの役割や機能を持ち、印旛沼流域の環境とも大変密接な関係があります。

印旛沼流域の農業と環境との関係について、農業生産の場だけではなく、消費の観点からも農業について考え、会場の皆様方と市民としてできることを考えたいと思います。

《第2分科会のまとめ》

①生産者のみならず、流通、消費との連携した地域ぐるみの対策が必要

②行政、消費者等の「できること」を再確認

③環境保全農業の難しさを消費者に理解してもらいたい

④議論の継続性を確保するため、懇談会を開催しては？

⑤昔の農業技術の見直し

⑥食育推進のため、教育との連携を深める(カリキュラムへの位置付け)

⑦地域財産としての農地の存在価値の見直し

【第5分科会】

「水に親しむ環境学習」

酒々井町の住民にとって、印旛沼は離れた場所にあり、遠い存在で関心が薄いと思われます。

しかし、酒々井町の中を流れている高崎川や江川は印旛沼に、中川は中央排水路にと流れ込んでいます。また町内には多くの湧き水があり、それぞれが河川に注いでいることも忘れてはいけません。

これらの水環境の特性を認識し保全と活用することにより『私達の心に安らぎを与える癒しの場所にできないか』『これからの環境について語れる場所にできないか』とわいわいと話し合いながら、実行できることはないかを考えてみようと思っています。

《第5分科会のまとめ》

①市民活動 できることから始めよう、行政は後からついてくる！

②仲間づくりと後継者の育成

③水に親しむ環境づくりと意識づくり

④印旛沼の保全には湧水保全！それには里山の保全が重要！

⑤湧水と川を活用した環境教育をしよう

【第3分科会】

「里山と水」

酒々井は、谷津が多く起伏の多い町です。周辺の丘陵地(里山を含む)に降る雨は、地面にしみ込み、再び湧水となって江川・中川・高崎川に注いでおり、酒々井町内においては、今でも50近い湧水地点が確認されています。

そこで、里山と水の関係をさらに深めて、印旛沼も含めた自然と人の暮らしの在り方を一緒に考えてみたいと思います。

まずは、里山と水に関連した話題を提供していただき、参加者同士でわいわいと印旛沼、里山、湧水等について各自の思いを語り、理想の印旛沼を目指して、現状から問題点を見つけ、どのようにしたら問題を解決できるか話し合っていきたいと思います。

出来れば、個人やグループでの具体的な行動計画まで話し合いで作ることができたらと願っています。

《第3分科会のまとめ》

①子供から大人まで一緒に遊べる。

②小さいうちに自然体験していることで人間的に成長できる。

③【涙の一滴】里山の整備が水を浄化し、印旛沼に流している。

【全体討論】

各分科会からの「まとめ」の報告、各分科会への質疑応答など、意見交換が行われました。そして、印旛沼水循環健全化会議の委員よりの講評と委員長より総評がありました。

《堀田委員・本橋委員からの講評》

★今までの「わいわい会議」は、会議に健全化委員が入り、指導・相談をしてきたが、今回は市民によって作られた「わいわい会議」になった。

★今までは「総論づくり」であったのが、今回は「各論づくり」となった。

★ここで提案されたことを仲間に発信し、共に行動して欲しい。

★どの分科会も熱気に溢れ、熱意のこもった話し合いが行われていて、とても感銘を受けた。

《虫明委員長からの総評》

★河川・農業(県・国・市町村など)一堂に会して話し合えたことが、とても貴重である。

★このような場を継続することが必要。これからどうしていくかも大切。

★水循環健全化だけでなく、農業の再生などを含めた水を中心としたメッセージを印旛沼から発信することが大切である。

【わいわい会議 in しずい を振り返って】

わいわい会議終了後、準備会メンバーで意見交換会を行いました。会議の運営・進行についての反省と会議に参加した感想、さらに、今後の酒々井町の印旛沼流域住民としての活動等について、わいわい話し合いました。

《意見交換会の結果》

★これを契機に、今後もみんなで集まり、情報交換や勉強会等の開催を含む地元市民活動団体の主体的行動による今後の方向性を検討し、その結果に基づいて行動する。